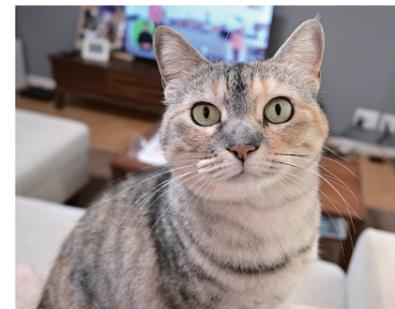


広報ましき「益城の文芸」コーナーでおなじみの増田邦子さんに会いました。招かれたリビングでは愛猫たちがお昼寝中。その寝顔に目を細めながら「詠む句や歌の題材は、日々の何気ないこと、車から見た光景、季節を知らせる植物が多いかな」と増田さん。また仲間と「詩話の会」という朗読会も開いているそうです。福岡県田川郡福智町で育った増田さんの、古里への思いを綴った詩をご紹介します。

「ふるさととは遠きにありて思うもの。ふるさととはどこかと聞かれたら、山は山でも黒い山。ぼた山見える小さな町。今ではなつかしい幼き時代」

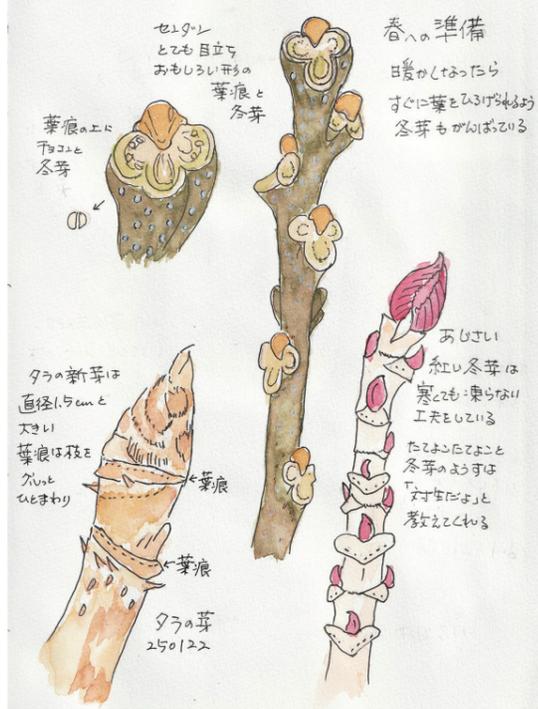


上 / 増田さんの愛猫の「みーちゃん」。人なつっこくて愛らしい女の子です。右 / 短歌、俳句、詩を詠むのが大好きだという増田さん



篠原さんがSNSで発信している植物のスケッチ画

日々を詠んで



左は篠原さん。右は大分から遊びに来た自然観察仲間の鬼塚隆子さん



広報ましき「益城の文芸」コーナーでおなじみの増田邦子さんに会いました。招かれたリビングでは愛猫たちがお昼寝中。その寝顔に目を細めながら「詠む句や歌の題材は、日々の何気ないこと、車から見た光景、季節を知らせる植物が多いかな」と増田さん。また仲間と「詩話の会」という朗読会も開いているそうです。福岡県田川郡福智町で育った増田さんの、古里への思いを綴った詩をご紹介します。



午後4時過ぎになると常連さんたちが続々と来店



駄菓子屋「赤とんぼ」を営む中さん夫婦

「40年やって守り通しているのは『子どもたちの名前は覚えないう』ということ。だって特定の子だけを名前と呼べば、他の子が不公平さを感じるでしょ」というのが妻の文代さんの流儀。「でもね、子どもたちが成長して再訪したとき、声を聞けばどんな子だったかすぐに思い出します。たとえば声変わりしても分かるとです」とも。

そんな2人の話を聞いてみると、筆者が開けっぱなしにしてしまった入り口の扉が突然バ

秋津川へと流れる鉄砂川が貫く馬水地区は、県道熊本高森線を挟んで南北に広がります。南地区の公民館の近くで、民家の

家事を楽しむ



堀川さんの庭の植物には名札がついています

定年後は家事全般を一手に引き受けているという堀川さん。「定年後の労働力は家のために使うと決めていて」と、町主催の「男性料理教室」に3年間通って以来、炊事は堀川さんが全て担当しているそうです。「食べてくれる人がいてくれるからこ



上 / 大豆や練り物が入った、堀川さんのひじきの煮物
左 / 「毎週火曜と金曜に生ゴミを出す日の朝は忙しい」と笑う堀川さん

そ、料理を作る楽しみがある」と長年愛用の分厚いレシピノートが、そのことを物語っていました。

秋津川と鉄砂川が交わる辺りの堤防に立つと、東側から城山、朝来山、船野山、飯田山と町の四山の姿を望むことができます。

今回の散歩は3回目の馬水地区。「なるほど」とうなずく興味深い話や、楽しい再会も待っていました。

ちょっとそこまで / わがまち散歩 WAGAMACHI SANKO

vol.57 馬水編

自然界の魅力



鈴なりのバンパイコに描かれたイラストや名前の意味とは…?

庭に鈴なりに実ったバンパイコ。よくよく見ると、黄色い実にはいろんな名前やイラストが描かれています。「全部、予約分。友だちが自分名前やイラストを描いてキープしての」と顔を見せたのは、前回の散歩で知り合った篠原晴美さんです。

「今日は友だちと飯田山に行って、ヤマアカガエルの卵を見つけてきたの」と楽しそうに話す篠原さんは、自分の住む地域の自然保護を目的とした自然観察指導員としても活動しています。秋津川に生息する植物や飛来する鳥などの観察にも余念がなく、自ら描いた植物のスケッチ画をSNSで発信しています。